

α Mプロジェクト2010 複合回路 Complex Circuit

接触領域 Contact Zone キュレーター:高橋瑞木 Curated by Mizuki TAKAHASHI

Vol.1 田口行弘 Yukihiro TAGUCHI

2010年4月17日(土)～5月26日(水) 11:00～19:00 日月祝休 入場無料
アーティストトーク:4月17日(土)17時～18時 オープニングパーティー:4月17日(土)18時～

●会期中のおもなイベント(5月の毎週土曜日にイベントを開催します)

「みんなで影絵をつくろう!」5月1日(土)11時～18時

「映画鑑賞会」5月8日(土)18時～19時30分(映画本編は66分)

「Music Live 音楽ライブ」(by 馬喰町バンド) 5月15日(土)17時30分～20時

「クローゼット・パーティー(食事会)」(by南風食堂) 5月22日(土)18時～21時

会場:gallery αM

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-2-11アガタ竹澤ビルB1F

tel:03-5829-9109 fax:03-5829-9166 <http://www.musabi.ac.jp/gallery/>

助成:株式会社資生堂、野村国際文化財団 認定:社団法人企業メセナ協議会

洞穴で見る真実 高橋瑞木

解体と構築という行為が田口の「作品」である。ベルリンではアパートのフローリングの床を剥がし、街中でその床材を用いてベンチやバドミントンのコート、あるいは用途不明の建造物を作ってはすぐに解体した。ソウルでは商店街に積まれた段ボール箱を積み木のように積んで、新しいかたちをつくってはまた壊す。だから、彼の作品の「全体的なかたち」は記憶されることがない。田口は「全体性」や「かたち」といった概念をからかうように、街なかで見つけた素材と戯れながらこうしたイメージからすり抜けてゆくのである。

本展ではベンヤミンが『パサーージュ論』で比喩的に用いているあのファンタスマゴリーさながらの空間が展開する。家具や日用品による建造物、そして壁に映るそれらの影という虚像。そして各所に現れる影の映像(田口はこれを虚像の虚像と呼んでいる)。そしてスクリーンの向こうにある空間の中で作業をする田口自身の影。

一見投げやりに見えるがしかし周到に配置された日用品の構成が作品なのか、それともそれらが壁に落とす影が作品なのか、影が映す田口の行為が作品なのか。いや、それら全てが補完しあってこそその作品だと得心がいった瞬間にも、それらの形は崩され、新たな像を結んでゆく。それは田口が会期中にモノの配置の解体と構築を続けるからだけではない。この作品はギャラリーを訪れる鑑賞者のシルエットによって、常にその姿を変化させられるからである。こうして、作品を「観」に来た誰もが解体／構築の共犯者となる。

実像と虚像、芸術と日常、静と動、主体と客体、これらの相反するものごとが境界線を侵犯しながらわたしたちにそこで見せるものは、それこそ作品と呼ばれしものの束の間の幻影なのだろうか。ならばその幻影の洞穴にこの身を置いた私たちは、一体どのような真実を見るのだろうか。

●α Mプロジェクト2010「複合回路」は3人のキュレーターによる企画展です。高橋瑞木企画:「接触領域」

「接触領域」

ミュージアムやギャラリーといった場所だけでなく、表現や創作行為自体が異なる時間や地理、そして他者を引き合わせる接触領域となる場合がある。そのとき、行為の主体はおそらくその領域の開墾者としての責任が問われ、作品から自立した存在とはなりえないだろう。「主体」と「責任」—このふたつを、重い足枷として引き受けるのではなく、解放された問いとして昇華することは果たして可能か。

接触領域には、他者が巻き込まれたり、招き入れられたりすることがある。あるいはあえて他者を排除することで誘発される接触もあるだろう。そしてその領域を拡大することによって偶発的な出来事がおこり、主体がそれに対する判断を迫られる場合もあれば、領域を囲い込むことで主体そのものが自らを問いなおす場合もある。いずれにせよ、パブリックとプライベートが入り乱れる接触領域が人前に晒されるとき、それは複雑さを増しながら疑問や共感、反発を生むだろう。摩擦を生じながら別の次元へと領域がトランスフォームしていき、主体と客体の間に相互作用がおこることを期待している。

田口行弘 たぐち・ゆきひろ

1980年大阪生まれ。2004年東京藝術大学美術学部絵画科卒業。2005年よりベルリン在住。現在、身体性を強調したパフォーマンス・インスタレーション、ストップモーションによる映像作品を、おもにドイツの多数の展覧会で発表。主な個展に2009年「Document Studio 2009」SAKAMOTOcontemporary(ベルリン)、「über」無人島プロジェクト、2008年「über」SAKAMOTOcontemporary(ベルリン)、「A Window to the World/世界に開かれた映像という窓」広島市現代美術館(広島)、「Moment -Performatives Spazieren-」galerie air garten(ベルリン)、「Ordnung -performative installation-」GDK-Galerie der Künste-(ベルリン)、2007年「Moment-performative installation」galerie air garten(ベルリン)など。主なグループ展に、2009年「第12回 文化庁メディア芸術祭」新国立美術館、「Re:Membering -Next of Japan-」(韓国)、「A Blow to the Everyday」(香港)「5+1ジャンクションボックス」(東京)など国内外を問わず多数。主な受賞歴に文化庁メディア芸術祭優秀賞(2008年)、アジアデジタルアート大賞優秀賞(2008年)、世紀のダヴィンチを探せ! 国際アートトリエンナーレ2007大賞2007年など。



田口行弘
Moment (15pics)
performatives spazieren(wandering),
2008, Berlin
(C)Yukihiko Taguchi



田口行弘
Moment (15pics)
performatives spazieren(wandering),
2008, Berlin
(C)Yukihiko Taguchi



田口行弘
Moment (15pics)
performatives spazieren(wandering),
2008, Berlin
(C)Yukihiko Taguchi

私は、2005年から現在に至るまで拠点をベルリンに制作活動しています。近年の代表作である「Moment」(2007、2008年)という作品では、会場であるギャラリーの床板(床)を素材に、それらを展覧会期間中少しずつ動かしながら日々変化するパフォーマンス・インスタレーションとして作品を発表しました。また、その変化する作品の様子の一瞬一瞬をデジタルカメラで写真を撮り、その写真を繋ぎ合わせることで出来るストップ・モーション映像は、その変化の過程を見ることが出来るドキュメント/映像作品として同時に発表。それ以降の作品は、主に日常的なモノを素材として、屋内や野外の空間や構造物・風景が変化するという変化そのものをテーマにした作品を世界の様々な地域で多数発表してきました。

今回ギャラリーαMでは、これまでの作品制作から気づいたこと、「モノを動かしていく中で必ず現れるそのモノの影」に焦点を当てました。そして、影/虚像そのものをテーマにギャラリーの所有物や日用品などを用いて会期中日々変化するパフォーマンス・インスタレーション作品を試みます。それは、モノの影によって出来る風景や空間の変化、実像と虚像を反転、虚像の影などの顕在化を試みる行為です。そして、期間中の週末には作品の変化のうちの一つとして、本展覧会のテーマに沿った食事会や音楽コンサート、映画鑑賞会などの関連イベントを企画し、来場者との発見や出会いをつくるきっかけをつくることができると願っています。また、展覧会の変化の過程と結果を繋ぐ要素として、その変化の過程の一部始終を記録し、結果の一つとしての映像作品を発表します。ちなみに、本展覧会のタイトル/コンセプト「cave」(洞窟)は、ギャラリーαMが地下室と言う立地条件を洞窟に見立てるとことや、プラトンの書物「国家」の「洞窟の比喩」からヒントを得ています。

この度、日本でこのような展覧会を出来るチャンスを頂いたことを有り難く受け止め、気合いを入れて作品制作に取り組ませて頂きます。 2010年 田口行弘

イベント出演者のプロフィール:

<馬喰町バンド>2007年10月に結成された、ギター・ベース・パーカッションから成るトリオ。最小の編成から紡ぎだされる音楽は、新鮮なのに誰の耳にも懐かしい、風のような海のような音。これぞ民謡の最新形、ジャパニーズソウルミュージック!

武 徹太郎 (Guitar) / 織田洋介 (Bass) / 小野一郎 (Percussion)

<南風食堂>小岩里佳と三原寛子による料理ユニット。味はもちろんのこと、食感、色、音、空間を含めたよりよい「食」の場のプロデュースを目指す。食に関する企画提案や編集物の制作、雑誌やWEBでの料理紹介などもおこなう。各種パーティでのフード提供もなかなか好評。

■本展に関するお問い合わせは下記までお願いいたします■

gallery αM ギャラリーアルファエム 担当:保谷香織(ほうや・かおり) hoya@musabi.ac.jp

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-2-11アガタ竹澤ビルB1F

tel:03-5829-9109 fax:03-5829-9166 http://www.musabi.ac.jp/gallery/

武蔵野美術大学 広報入学センター 保谷、井上

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 tel:042-342-6038 fax:042-342-6094